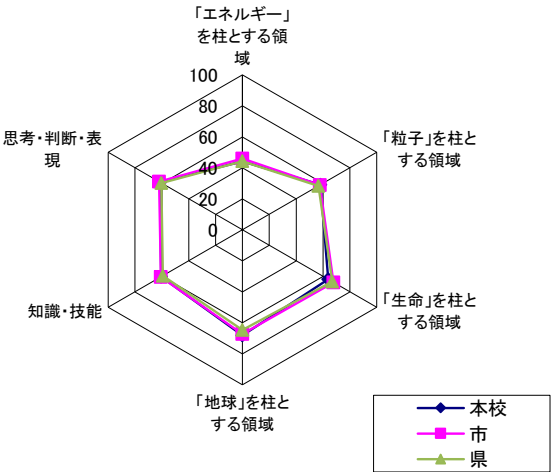


宇都宮市立瑞穂台小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	44.2	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	58.1	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	63.9	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	68.1	67.2	64.6
観点	知識・技能	60.6	60.8	59.2
	思考・判断・表現	61.3	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	正答率は市平均をやや下回る(−1.8ポイント)。 ○乾電池のつなぎ方とその名称については理解している。 ●簡易検流計のはりのふれ方から分かることを答える設問の正答率が28.6%と低い。	・実験の「結果」を記述することと、結果をもとにした「考察」の違いを理解させるために、授業の中で自分の考えを記述したり話し合ったりする活動を意図的に取り入れていく。
「粒子」を柱とする領域	正答率は市平均と同程度である(+0.4ポイント)。 ○金属の温度と体積の変化についての内容はよく理解できている。 ●水のすがた(固体・液体・気体)についての正答率が28.6%と低い。	・実験の結果と身の回りの事象を結び付けて考えられるように実体験をできるだけ取り入れ、さらに、日頃から自分の考えを記述したり、意図的に話し合ったりする活動を行うようにする。
「生命」を柱とする領域	正答率は市平均を下回る(−3.9ポイント)。 ○季節ごとの生き物に関する基本的な学習事項が定着している。 ●イチョウの成長過程を問う設問の正答率が低い。	・全体的に、理科的な見方や考え方、知識は身についているので、さらに発展的な問題を扱ったり、実験や観察の機会を増やしたりしていく。また、小グループでの発表の場面を意図的に取り入れる。
「地球」を柱とする領域	正答率は市平均と同程度である(+0.9ポイント)。 ○地面を流れる水のゆくえについての基礎的な知識が身についており、正答率が高い。 ●天気と1日の気温についての記述問題の正答率が市平均を下回る(−4.4ポイント)。	・実験や観察の結果や分かったことなどを自分の言葉で簡潔に記述させたり、キーワードを大切に、それを文章に表現したりする活動を意図的に取り入れる。